

旧事務組合時代の施設 管理状況と更新計画を問う

(自民クラブ)

問

合併前に、旧道前福祉衛生事務組合や旧周桑事務組合において建設された福祉・衛生関係施設には、老朽化が進んでいるものが多い。市民生活に不可欠な施設が多いだけに、適切な管理運営や更新計画が必要だが、施設の現状とそれを踏まえた更新計画の検討状況を問う。

答

旧事務組合において建設された施設としては、福祉関係施設では、特別養護老人ホーム「道前荘」・養護老人ホーム「石燧園」と、知的障害者更生施設として「東予学園」・「道前育成園」がある。

このうち、「道前荘」・「石燧園」は、平成11・12年にそれぞれ大規模改修を行っている。

また、「東予学園」は、平成15年に建て替えし、「道前育成園」は、建築後31年が経過しているが、現在のところ特に管理上の支障はない状況である。

これら福祉関係施設については、改修の必要が生じた際に適

切に対応することとし、施設の更新計画は現在のところないが、「東予学園」と「道前育成園」では、障害者自立支援法による平成24年4月からの新サービス体系移行に対応できるように、必要に応じて改修していきたい。

また、衛生関係施設では、し尿処理施設「ひうちクリーンセンター」・火葬場「やすらぎ苑」・ごみ処理施設「道前クリーンセンター」がある。

「ひうちクリーンセンター」は、公共下水道の整備や合併浄化槽の普及により、くみ取りし尿の搬入量が減少する一方で浄化槽汚泥が増加しており、運転管理が困難となってきた。

「やすらぎ苑」では、平成18年4月から指定管理者による管理運営を行っている。

「道前クリーンセンター」は、現時点では大きなトラブルもなく運転に支障は生じていない。

各施設とも、市民生活に支障を来さないよう保守点検に努め、運転管理を行っているが、今後も引き続き機器等の計画的な更新や維持管理を行いながら、特に「道前クリーンセンター」で

は、ごみの減量化を進め、施設の延命化を図っていききたい。

まちづくり基盤整備事業の 進ちよく状況は？

(リベラル西条)



(完成予想図)

伊予西条駅前周辺の再生は重要なテーマ

問

平成16年度から進めてきた「まちづくり基盤整備事業」が平成20年度で最終年度を迎えるが、計画の進ちよく状況及び今後の計画、さらに新町通りの歩道整備事業の進め方について問う。

答

まちづくり基盤整備事業のうち、伊予西条駅前周辺の整備は、平成19年度までに鉄道歴史パーク in SAIJO・駅西駐輪場を整備し、平成20年度は整備中の駅前広場を継続して整備することとしている。

総合福祉センター周辺などの整備は、平成19年度までに新町緑地・古屋敷駐車場・小広場2か所・情報板3か所の整備、平成20年度は、新図書館に隣接する公園・情報板22か所・商店街等の入口ゲートサイン5か所の整備を予定している。

また、コミュニティ道路等の道路整備は、平成19年度までに西条駅前下島山線など6路線の整備を図っており、平成20年度は、西条駅前下島山線東詰めの交差点改良・西条神拝2号線(総合福祉センターへの西からの進入路)・西条大町1号線(新町通り)の歩道・大町神拝1号線・神拝22号線(新町泉)総合福祉センター)の整備を図りたい。

新町通りの整備については、通常の道路改良事業では起点から終点までの完工が条件であるため長年の課題であったが、まちづくり交付金事業では、将来的な展望も含めて可能な所を市の裁量で整備できるため、現在、歩道を整備している。

今回の事業期間中に完成が難しい所や多大な補償費等が必要なものなどは、将来的に協力が得られることとなった時点で整備を図りたい。

学習指導要領改訂案のもと 今後の教育を問う！

(無党派)

問

中央教育審議会答申では、教員定数の改善が必要としているが、来年度の教員増は1千人にとどまり、今後の大幅増も期待できず、新指導要領は、この前提条件を欠いてのスタートとなる。授業時間10パーセント増と教員不足の中で、現場の創意工夫については、どのように対処するのか。

また、道徳教育推進教師を全校に配置していくことで、道徳教育はどう変わっていくのか。

答

小学校の授業時間数は、週時間にして小学校1年生・2年生で2時間、3年生から6年生、中学校の全学年で1時間の増となっている。授業時間数増への対応で大切なことは、児童生徒の実態を踏まえ、校内体制の整備を確立することであり、教師の事務負担の軽減等を含めた学校組織力の向上を図っていききたい。

教員確保については、県の当初予算に新規事業費として、県下で非常勤講師50名を配置する